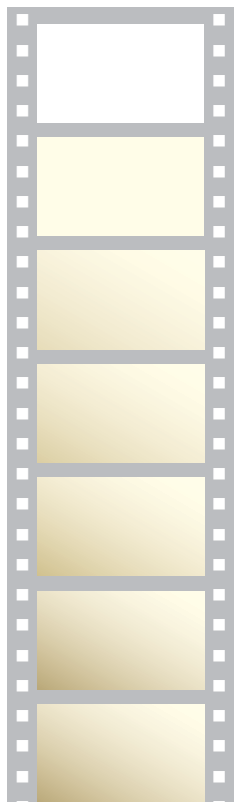
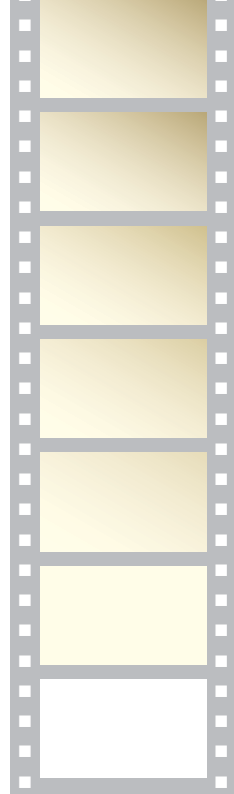


伸<sup>ノ</sup>さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



## 第六十四回 「アナウンサーへの道」④

Sテレビの筆記試験は、69年（昭和44年）7月10日木曜日午前10時から東京と札幌、ふたつの会場で行われました。試験科目は、一般常識、英語、国語、論文、それに作文でした。その頃ぼくは、東京でほとんど各局の試験を受けていたため不在で、仙台の実家では、母が連絡役をしてくれました。

そんななか、7月15日火曜日、仙台中央電報局から電報が仙台の実家に届いたと母から電話が入ったのです。電文は、

「二一ヒゴ ニジ バ ンチヨウキョウサイ カイカンヘオイデコウ」Sテレビ  
ジンジブと書いてありました。

つまり、筆記試験に合格したので、あとはアナウンステストと面接ですから21日来て下さい。という連絡だったのです。

ぼくにとって7月21日・月曜日は、就職と卒業試験という二つのハードルだけを残した「あこがれ」への入口の日となりました。

その日は、各局のアナウンステストを受けて挫折し、疲れ果て、いま残っている唯一の入口を開放して、「何とか就職を決めたい」と自分自身の心に誓い、いつもは30分前に試験会場へ入るのに、この日に限って1時間も早く会場へ着いてしまったのです。

7月下旬の東京都内の天気は、猛暑で真夏日、面接前にひと休みしようと近くの喫茶店へ入ってみると、何と、お客が一杯でも混んでいました。お客はみんな、天井からつり下げた台に載せたテレビのブラウン管にくぎづけになっていました。

それは、アメリカの月着陸宇宙船「アポロ11号」（日本時間の7月21日）の船長と飛行士が、人類として初めて月面の「静かな海」に着陸。お客は月面からのテレビ中継を観ていたのでした。「これは、一人の人間にとって小さな一歩だが、人類にとって偉大な飛躍である」とアームストロング船長は名言を残しました。

初めての面接試験を前に、ぼくもそんな歴史的名言を面接で残したいと思うのでした。

（続）

【追記】

ぼくが喫茶店のテレビで観た宇宙中継は、アメリカの「アポロ計画」「アポロ11」でした。この計画は、人間を月面に着陸させ、安全に地球へ帰還させることを目的に計画されました。

映画化された「アポロ計画」は「アポロ13」です。

※アポロ13

サテライト

95年製作・アメリカ映画

監督 ロン・ハワード

出演 トム・ハンクス

ケヴィン・ベーコン

ビル・パクストン

音楽 ジェームズ・ホーナー

第68回アカデミー賞・編集賞、音響賞受賞。

アメリカの月面探査計画「アポロ11」〜「アポロ17」の中で、この「アポロ13」だ

けが月に着陸できませんでした。「アポロ13」はその絶体絶命の危機と地球への生還を描きました。

主演をしたトム・ハンクスはアポロ計画をテーマにしたテレビシリーズ「フロム・ジ・アース／人類、月に立つ」の製作総指揮もしています。

伸

平成25年5月